

コースタイム：8月31日(日)鳥倉林道ゲート 6:00—三伏峠 9:30—塩見小屋 13:00—塩見岳 14:30—塩見小屋 15:30 9月1日(月)塩見小屋 5:40—三伏峠 9:00—鳥倉林道ゲート 11:35

ツアーで参加し、初日は小渋温泉に宿泊して早朝に出発した。峠に近づくると彼方に塩見岳が見えてきた。まさに兜の形だ。鳥倉林道登山口から3時間で三伏峠に到着。昔は塩川からのルートしかなく長かったが、塩



川ルートは通行禁止となっていた。北側から登る塩見新道も通行止めとなっており、鳥倉ルートが唯一となっていることがわかった。

三伏峠は42年前の夏に荒川岳へ縦走した時比べ、花畑がずいぶん減っていた。鹿による食害のためだそうだ。塩見小屋までは樹木に覆われて展望はなく、ダラダラとした縦走路が長い。本谷山は大井川の源頭にあたり、数少ない展望台だが、雲の中で展望はなかった。疲れた足で13時に塩見小屋に到着した。塩見小屋は新しい小屋を建設中だった。小屋に着くと管理人から携帯トイレ使用のレクチャーがあり女性にはかなり辛い。使用した携帯トイレはまとめてヘリコプターで降ろされるそうだ。



小屋に荷物を置きサブザックで塩見岳へのアタックを開始する。健脚揃いのパーティだったが、ロングコースのため途中で2人がリタイアした。山頂は雲に覆われて大展望はなかった。天狗岩と塩見岳の岩場は落石に注意を要した。帰路に本峰の岩場を下ると、雲の切れ目にやっとその山容が現れた。上写真は本峰から見下ろした天狗岩である。塩見小屋に下り待つこと1時間、やっと雲が切れて山の姿が現われシャッターを切る。

翌日の帰路は雨が降り続き、塩見岳は一瞬姿を現しただけ。ずぶ濡れになって下山し、小渋温泉に入って生き返った。

40年前の残雪期に登って以来2度目の塩見岳で、足の回復を確認できた山行だった。右写真は天狗岩から見上げた残雪の本峰である。前回は友人と2人で塩川小屋から三伏峠に登り、三伏峠小屋に宿泊した。翌日は雪の中を塩見小屋を越えて塩見岳山頂に立ち、その日に縦走路を三伏峠小屋まで戻ったことを思い出した。天気にも恵まれたこともあるが、長い雪の縦走路の往復と急斜面のきつい塩見岳のアタック、若い頃は我ながらよく歩いたものだと、昔を思い出した。

